

歴史を 探る

第148回

五條新宮縦貫鉄道 (その3)

五新線は、当初、昭和13年から約10年かけて、五條から阪本の区間24kmを建設する予定でしたが、関東大震災からの復興や、財政緊縮政策により、内閣が交代するたびに建設時期は延期されました。

また、浜口雄幸内閣(昭和4年7月〜昭和6年4月)の時には、自動車路線として建設されることが決定され、鉄道路線としての建設に暗雲が立ち込めました。

このように社会や政治の情勢に翻弄されながらも、奈良県選出の議員や各町村長らが政府へ建設を要望したこと、昭和12年12月、建設工が決定し、翌年12月、五條から生子間の約6kmの工事入札が行われ、昭和14年3月、起工式が催されました。ここに、延べ約20年に及ぶ五新線の建設が開始されたのです。

まず、起工式から3か月後に開始された工事は、五條駅から生子ずい道(ト

ンネルの事)までの約6kmについて、盛土等の基礎工事や掘削等が行われました。しかし、昭和12年に始まった日中戦争の影響により、昭和16年8月に工事は中断され、そのまま終戦を迎えました。

それから約10年後、政府は五新線建設再開の請願を受けて、建設再開となりました。それに伴い、昭和29年1月に、2度目の起工式が催され、戦前に工事に着手することが出来なかった箇所を含めた、五條から城戸間約11kmで工事が実施されました。大鉄工業株式会社、森本組、村上建設、奥村組の4建設会社が分担し、昭和32年8月から工事が実施されました。この工事では、丹生川橋梁の建設や、屋那瀬すい道の掘削工事が実施されましたが、地元で鉄道かバスのどちらを走らせるかの意見対立等もあり、昭和34年12月で工事が中断されました。その結果、橋梁の多くは橋脚しか建設されませんでした。(つづく)



現在の生子ずい道

文化財課 山本望実
電話 24・2011

芭蕉句集『笈の小文』

見取り図案内其の百四拾六
文学・文芸作品に見る五條②

松尾芭蕉は、江戸時代(正保元年〜1644〜元禄7年)1694)の俳人です。当時の俳諧連歌の1句である発句を磨くことで、俳句の基礎を作り上げました。

芭蕉は、伊賀国(三重県伊賀市)に生まれました。29歳のとき江戸に出て俳句を学び、37歳で庵を結んで、芭蕉を名乗ります。41歳の年に、母親の墓参のために伊賀に戻りますが、その旅の日記が『野ざらし紀行』で、以来、旅日記を句集にまとめました。44歳で『鹿島紀行』『笈の小文』、45歳で『奥の細道』と、優れた句集を著します。芭蕉の旅日記『泊船集』には、次のような記述がありました。「やまとの国を歩いていて、葛城山(ふもと)を通ると、よもの花は盛りにて、峰々はかすみわたる。明ぼのけしき、いとど艶なるに、彼の神みかたちあししと、人の口さがなく世にいひつたへ侍れば」(訳・やまとの国を歩いていて、葛城山(ふもと)を通ると、花々は美しく咲き、峰々には霞がたなびいている。明け方の風景は、なんと素晴らしいことだろう。

彼の神様は、見た目が醜いのだと人々は悪口を言い伝えている(のだけれども) 葛城の一言主の神さまは、役行者(やくぎやう)が葛木山(葛城山、金剛山の総称)から金峯山に橋を架けるので手伝ってほしいと頼まれるのですが、自分の姿が醜いことを恥じて、夜だけしか手伝おうとしなかったという事です。芭蕉は、それを句に詠み、『笈の小文』に残しました。

『猶見たし、花に明け行く 神の顔』 笈とは、修験者が背負う小箱のこと。芭蕉は、修験者のような格好で、山を歩いたのでしょう。

櫻井寺(五條市・須恵)には、同じ『笈の小文』の芭蕉の一句が句碑に刻まれています。『桜かりきとくや日々に 五里六里』

桜の花を見たさに、ご苦労なことに、日に5里も6里も歩いてしまおうという意味です。 享和3年(1803)、五條の俳句仲間「五條連中」がこの句碑を建立しました。

館長 川村 優理

図書館を使った調べる学習 コンクール入賞作品展示

「五條市図書館を使った調べる学習コンクール」で入賞した22作品を図書館2Fで展示します。

期 3月1日(月)〜14日(日)
※水曜日(休館日)を除く

新刊本棚 おとなの本

桃太郎のきびだんごは
経費で落ちるのか?



高橋 創 / 著
ダイヤモンド社

きびだんごは経費になるのか? 竜宮城にいるあいだ、税金を滞納するとどうなるの? 桃太郎や浦島太郎など、思わぬ事態に右往左往する昔話の登場人物たちの姿を見守るうちに、自然と税金の知識が身につく本。

こどもの本

自由帳みせて!



すぎき こうせい / 文
福音館書店

線やマス目がないので、絵や文字を自由にかきこむことができる自由帳。友だちの自由帳には、なにがかいてある? 現役小学生から、かつての小学生までの100冊以上の自由帳を紹介した、読んだとたんにかきたくなる本。

3月 図書館だより

市立図書館(水曜休館)

22-4133



図書館ブログ

おたがいさま



群 ようこ / 著
角川春樹事務所

おたがいさまは、自然と税金の知識が身につく本。

おだんごねこさま



令文 ヒロ子 / 作
岩崎書店

2020年度 図書貸出ランキング (2020年4月〜2021年2月調べ)

◆おとなの本 (タイトル/作者/出版社)

- 1位 流浪の月 / 凧良ゆう / 東京創元社
- 2位 マスカレード・ナイト / 東野圭吾 / 集英社
- 3位 クスノキの番人 / 東野圭吾 / 実業之日本社
- 4位 暴虎の牙 / 柚月裕子 / KADOKAWA
- 5位 流人道中記上・下 / 浅田次郎 / 中央公論新社

◆こどもの本 (タイトル/作者/出版社)

- 1位 まちのおばけずかん / 斉藤洋 / 講談社
- 2位 きえた!? かいけつゾロリ / 原ゆたか / ポプラ社
- 3位 なんだろうなんだろう / ヨシタケシンスケ / 光村図書出版
- 4位 ぼくがきょうりゅうだったとき / まつおかたつひで / ポプラ社
- 5位 ワタナベさん / 北村直子 / 偕成社